

私の故郷、大学及び新潟大学に留学した感想

口腔外科学第一講座 宮 琳



中国の長春市から参りました宮琳と申します。長春は中国の東北にある吉林省の政治、経済、文化センターです。市区面積は3577平方Kmで、市区人口は670万くらいです。長春には13つ国立大学があり、中国の最大的な自動車会社と映画製造会社があり、科技文化都市と自動車都市と映画都市として中国で有名です。さらに、長春では四季がはっきり分かれていて、4月から春が始まり、6月になると夏になります。7、8月は気温が一年中で一番高く、30度くらいです。9、10月には秋になり、毎年11月から冬に入ります。一番寒いのは12月、翌年の1月で、-30度くらいになります。毎年雪が何回降り、新潟の雪と違うところは、寒いからです、毎年降り始めてからそのまま、来年の春まで溶けません。長春には美しい長白山と松花江及び朝鮮人参など数多くの名物をもっています。

私の出身大学は中国衛生部所属、国立白求恩医科大学です。白求恩医科大学は1939年創立され、特にCanadaの胸部外科Dr. Norman Bethuneが創立教育医療業務に深くかかわったために、大学名がBethune(白求恩)University of Medical Scienceとなっています。大学の組織は基礎医学院、予防医学院、地方病研究所、第一臨床学院、第二臨床学院、第三臨床学院(中日連誼病院)、口腔医学院、社会人教育学院、看護婦専門学校、実験動物学部、製薬工場からなります。口腔医学院は、口腔補綴学、口腔内科学(口腔保存、小児歯科、牙周粘膜病科)、口腔外科学、口腔矯正学、口腔放射線学、口腔予防学、口腔基礎医学教室と附

属病院がらなります。学部教育は5年、大学院教育すなわち修士と博士は3年ずつであり、1-5年学部生総数は200名があります。教授は11名、助教授は31名がいます。附属病院にはユニット100台、病棟には56ベッドがあります。口腔附属病院は東北地区で一番大きな口腔病院です。

私は1985年に大学を卒業後ずっと当口腔医学院口腔外科学教室に勤めております。1988年当大学の大学院に入学して3年間の修士課程を修了し、歯学修士号を取得しました。1992年に講師になりました。臨床の仕事について簡単にご紹介させていただきます。中国では患者が多くて、歯科医者が少なく、特に口腔外科医がもっと少ないですから、毎日の仕事は大変忙しいです。口腔外科学教室は2つグループがあります。1つのグループは主に外科矯正の手術と研究をして、ほかの1つグループは主に腫瘍の手術と研究をします。一般には大学を卒業してから、講師になるまで2つグループをかわるがわる訓練して、講師になると、自分の専門と同じグループで仕事をします。病棟には週に四日間の手術日があり、月曜日から、木曜日まで、普通は1日3、4例手術があり、忙しい時は5、6例手術があります。金曜日は教授回



長春市



国立白求恩医科大学

診と病例検討会があります。外来の急診は多いですから、毎日夜間当直は3人です。講師が1人、医員や研修員が1人、実習学生が1人です。外来の急診はできるだけ早く手術をします。ですから手術のチャンスがいっぱいあります。土曜日と日曜日は午前中9時から10時まで必ず病室を巡査にいきます。何も問題がなければ、安心して帰ります。中国で歯科開業医が特に少ないです、歯科患者がほとんど国立や公立病院に歯科医に見てもらいます。ですから、口腔外科外来患者が日均に40人くらいです。主に歯科疾患です。

私は大学院に入ってから卒業後も主に rhBMP-2 と生体材料について研究しております。新潟大学歯学部第一口腔外科の中島教授及び第一口腔解剖の小澤教授の教室では、この分野の臨床や基礎の研究が非常に進んでいることが知り、今までの研究をさらに発展させるために、新潟大学歯学部

に留学してきました。1999年4月に大学院生として第一口腔外科に入学しました。今第一口腔解剖教室で rhBMP-2 について研究しております。

光陰矢の知し。あっという間に2年が過ぎました。2年は人間の一生に対して長いとは言えませんが、私にとっては多くの感想があります。最初家族と分かれて1人で新潟にまいりましたから、非常に不安でした。幸いに諸先生方が私にいろいろとお世話をしてくださいました。日本の生活にも徐々に慣れてきました。研究については、小澤教授は骨の研究について世界で有名な教授ですが、いつも私の研究を大変丁寧にご指導くださりました。解剖の諸先生も私に親切にしてくださいました。本当に毎日解剖の諸先生と一緒に実験をして本当に楽しいと思います。楽しく毎日を過ごしています。たいへんな留学は楽しい留学に変わりました。論文や発表はまだまだですけれど、もうすこし時間がかかりますが、いい勉強になっています。いろいろな感想が私の人生に忘れないほど心の中に残っております。

最後、お世話になってくださった先生方に心からお礼申し上げます。これからも、諸先生方に御迷惑をおかけすると思いますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

将来 私の大学に大学間交流などで遊びにいらしてください。大歓迎です。